

日本語／日本語教育研究

[3]

2012

Studies in Japanese Language and
Japanese Language Teaching

日本語／日本語教育研究会

ASSOCIATION OF JAPANESE LANGUAGE AND
JAPANESE LANGUAGE TEACHING

ココ出版

Coco Publishing

ISBN 978-4-904595-23-7
C3381 Y2400E

定価 本体2,400円+税

ココ出版



9784904595237



1923381024009

日本語／日本語教育研究

[3]

2012

Studies in Japanese Language and
Japanese Language Teaching

日本語／日本語教育研究会

ASSOCIATION OF JAPANESE LANGUAGE AND
JAPANESE LANGUAGE TEACHING

page 5

「学習者独自の規則」とは何か
—その形成にかかわる認知的要因からの
分類の一試案
張 麟声

What are "Learner-specific Rules?"
A classification of their formation with
reference to their cognitive factors
ZHANG LINSHENG

投稿論文 Research papers

page 21

初級教材における
使役の「偏り」と使用実態
岩田一成

The Use of Causative Constructions
in Conversational Corpus and
Inquiry into Basic Japanese Textbooks
KAZUNARI IWATA

page 39

文法シラバス改訂のための一試案
—ボイスの場合
庵 功雄

A Proposal for Revising Grammatical Syllabus
A case of voice
ISAO IORI

page 57

終助詞的用法からみる
「のだから」の意味
—産出のための理解を目指して
中村紗弥子

The Meaning of *Nodakara* with Special
Reference to Sentence-final Usages
Toward a better understanding for production
SAYAKO NAKAMURA

page 73

学術論文でノダ文は
どのように用いられているのか
清水まさ子

How is the *Noda* Sentence Construction
Used in Academic Papers?
MASAKO SHIMIZU

page 91

論文作成における
「読む」活動の試み
—中国の日本語専攻における
卒論指導実践の分析から
楊 秀娥

Trial in "Reading Activity" Practice for
Thesis Creation
An analysis of the graduation thesis instruction
practice for Japanese majors in China
YANG XIUE

page 109

接触場面における日本語学習者の
共同解決型発話ストラテジー使用
についての一考察
—ポライトネスとの関わりを中心に
許 挺傑

The Usage of Co-operative Utterance
Strategies by Japanese Learners in
Japanese-based Contact Situations
The relationship with politeness
XU, TING JIE

page 127

中国人日本語学習者による
語彙的問題を修復するための
コミュニケーション方略
方 穎琳

Lexical Problem-Solving Communication
Strategies Employed by Chinese Japanese Learners
FANG YINGLIN

中国人日本語学習者同士の初対面
会話における話題展開パターン
—日本語と中国語の会話を通して
李宇霞

Topic Development Patterns of Initial
Conversations between Chinese Learning
Japanese
As shown in their Japanese and Chinese conversations
LI YUXIA

中国語を母語とする
上級日本語学習者の
語りにおける名詞の使用について
—日本語母語話者と比較して
烏日哲

The Use of Nouns in Narrative by
Advanced Chinese Learners of Japanese
A comparison with native speakers of Japanese
WURIZHE

台湾人日本語学習者における
ナ行音・ラ行音・ダ行音の聴取混同
大久保雅子

The Perception of the Japanese /n/, /r/,
and /d/ by Taiwanese Learners of Japanese
MASAKO OKUBO

使役の「文脈」
—《強制》の意味を表す使役を中心に
王慧雋

Context of Causative Expressions
Focusing on the expressions concerning "enforcement"
HUIJUN WANG

メタ言語宣言表現の「文脈化」
—表現教育の視点から
李婷

The Contextualization of Meta-
Discourse-Announcing Expression
From the viewpoint of education for
expression and communication
LI TING

時の“特化”を表す名詞述語文
—〈～時だ〉、〈～昨今だ〉などを例に
田中寛

The Nominal Predicate Sentence Expressing
“Specification” of Time
With such phrases as “~toki-da”, “~sakkon-da” as examples
HIROSHI TANAKA

投稿論文(海外) Research papers (overseas)

動詞の意味特徴からみる「ている」
の「結果の状態」用法の習得
—縦断的事例研究
簡卉雯

The Acquisition of the Resultative State Meaning
of Japanese Aspect Marker *-te i-(ru)* from the
Viewpoint of the Semantic Features of Verbs
A longitudinal case study
CHIEN HUI-WEN

『現代日本語書き言葉均衡コーパス』
及び中上級日本語教科書における
複合動詞の出現頻度
何志明

Japanese Compound Verbs
A study of its frequency of appearance in the
“Balanced Corpus of Contemporary Written
Japanese (BCCWJ)” and selected intermediate/
advanced Japanese language textbooks
HO CHI MING

執筆者一覧 page 277

コメント page 278

日本語／日本語教育研究会規約
page 282

研究発表の募集 page 283

『日本語／日本語教育研究』投稿規定
page 285

『現代日本語書き言葉均衡コーパス』 及び中上級日本語教科書における 複合動詞の出現頻度

何 志明

✧要旨

日本語の複合動詞は習得が難しいものの1つであると言われている。本稿は、これから複合動詞を導入するために必要とされるシラバスや教材作成に向けて、現在の複合動詞の使用状況を考察する。本稿では大規模な日本語書き言葉コーパスと近年（2000年以降）出版された中上級日本語教科書に収録されている複合動詞の出現頻度を調査した。その結果、コーパスを通して出現頻度の高い複合動詞と近年の教科書に採用されている複合動詞を特定することができた。本研究は今後限られた授業時間の中で優先的に教えたほうがよいと思われる複合動詞の選定基準を、出現頻度を条件として考慮することを提案する。

✧キーワード

複合動詞、コーパス、出現頻度、教科書、シラバス

✧ABSTRACT

Japanese compound verb is regarded as one of the most difficult items to master in Japanese language learning. This paper aims to examine current usage of compound verbs for its introduction in syllabus and teaching materials. For this paper, the frequency of appearance of compound verbs in BCCWJ (a major corpus specializing in written Japanese language) and selected intermediate/advanced Japanese-language textbooks published after the year 2000 are examined. The aim of the study is to identify compound verbs with a high frequency of appearance in BCCWJ and selected Japanese language textbooks. The findings in this paper provide significant inputs on how to prioritize the teaching of compound verbs within limited classroom teaching hours.

✧KEY WORDS

Compound Verb, Corpus, Frequency of Appearance, Textbook, Syllabus

Japanese Compound Verbs
A study of its frequency of appearance in the “Balanced
Corpus of Contemporary Written Japanese (BCCWJ)” and
selected intermediate/advanced Japanese language textbooks
HO CHI MING

1 はじめに

日本語学習者にとって、複合動詞は習得が難しいものの1つであると言われている。何 (2009) は、香港の日本語学習者35名 (日本語能力試験1級・2級合格者) を調査した結果、多くが複合動詞の指導方法を改善すべきであると指摘している (34人) と報告している。さらに、複合動詞を使いたくても使えない、複合動詞は非常に難しいので積極的に使いたくない、日本語教師に複合動詞を教えてもらったことがない、といった意見が出ている。このように、学習者にとっても教師にとっても複合動詞は敬遠されている学習項目の1つである。本稿は、先行研究における複合動詞の習得についての考え方を見直し、実際に日本語母語話者が使用している複合動詞とは何かという観点から、学習者に (最小限) 必要な複合動詞を導入することを提案し、優先的に教えなければならない複合動詞を探る。すべての複合動詞を習得するのではなく、選択的に習得することにより、学習意欲を高め、効率的に複合動詞を習得することを目指す。また、日本語教育における複合動詞の取り扱いについて、市販の中級及び上級日本語教科書に掲載されている複合動詞を調査し、どのような複合動詞が取り上げられているかを考察する。

2 先行研究

松田 (2004: 2) では、「複合動詞の結合条件」、「単純動詞と複合動詞の使い分け」、「習得方法」の3点が学習者にとって習得の困難点であると述べている。松田 (2004) で指摘されている点が複合動詞の習得に困難をもたらしている要因といえる。このような複合動詞習得の問題点に応じた打開策を講じなければならない。何 (2010a) は、コーパスの使用頻度が高い複合動詞例を利用して、学習者の習得状況を調査し、何 (2010b) は、今までの先行研究では実施していなかった学習者の複合動詞全体の習得に注目し、学習者が複合動詞をどれくらい理解しているかアンケート調査で調べ、複合動詞の理解及び使用実態を検証した。この2つの研究結果により、学習者による複合動詞の習得状況及び誤用

の実態が明らかになった。しかし、時間的な制限や学習意欲の低下などの理由で膨大な数の複合動詞をすべて教えることができず、先に教えなければならない複合動詞、いわゆる導入の優先順位を決める手がかりはまだ見つけられていない。田中(1996,2004)では、複合動詞は日本語の教科書の学習項目としてほとんど取り上げられていないと指摘しているが、先行研究の指摘通り現在の日本語教科書でも複合動詞はあまり取り上げられていないのだろうか。もし取り上げられているのならば、どのような複合動詞が取り上げられているのだろうか。森(2011:57)では、初級で教えるべき文法項目について、学習者の習得状況を考慮して必要な項目や定着しにくい項目を探すことは日本語教育文法にとって有益な分析であるが、その前に「そもそも日本人が使っているのか」ということを明らかにする必要があると指摘している。筆者は文法項目だけでなく、複合動詞のような語彙の習得についても同じようなことが言えると考えられる。つまり、限られた授業時間の中で、学習者には一般的に使用頻度の高い複合動詞を教えるほうがより効果的ではないかということである。教科書にどのような複合動詞が掲載されているかを考察することによって、これからの複合動詞を教えるシラバス作り、教材作りのために役に立つ基礎研究のデータを提供することができるのである。

3 本稿の目的

本稿の目的は先行研究では言及されていない複合動詞導入の優先順位を決める手がかりを探ることである。石井(2007)によると、複合動詞の数は2,494語に上っている。確かに、すべての複合動詞を習得するのは無理があり、またその中には日本語母語話者もあまり使用していないものが含まれているので、せっかく習っても使う機会がない場合もあると考えられる。複合動詞の習得を促進するためには、まず日本語母語話者がよく使用する複合動詞を洗い出す必要がある。本稿では複合動詞の例を収集するため、Yahoo!知恵袋、白書、書籍、新聞の4つのジャンルを収録している、大学共同利用機関法人人間文化研究機構国立国語研究所が開発した『現代日本語書き言葉均衡コーパス』モニター公開データ 2009年度版 (Balanced Corpus of Contemporary Written Japanese。以下、BCCWJ 2009

と呼ぶ)を利用することにした。BCCWJ 2009には日本語母語話者がよく使っている書き言葉のデータが大量に収録されているため、日本語母語話者の一般的な書き言葉の使用のモデルとみなせるからである。さらに、現在日本語教育では複合動詞がどのように扱われているかを明らかにするため、市販の日本語教科書(中級及び上級)に掲載されている複合動詞を調査する。

4 調査方法と手順

4.1 BCCWJ 2009の調査

まず石井(2007:363-409)の資料1「既成の複合動詞造語成分の接続表」の2,494語から、4種類の辞書・資料(GSIK)^[註]のすべてに入っている複合動詞を約1,200語選び出した。4種類の辞書・資料(GSIK)のすべてに入っている複合動詞は一般的に認識度や使用頻度が比較的高いと考えられるからである。次に、選び出された約1,200語すべてをBCCWJ 2009で検索し、それぞれの複合動詞の使用頻度をチェックした。さらに使用頻度がもっとも高いトップ10%の120語を選出した。これからの日本語教育における複合動詞のシラバスを考える時、可能な限り学習者の負担を軽減するため、まずは最もよく使用されている複合動詞のトップ10%程度を学習者が学ぶようにすればよいのではないかという筆者の考えから、10%、120語という数字を提示した。

4.2 中上級日本語教科書の調査

現在市販されている中・上級日本語教科書を6種類選出し、索引または語彙リストに掲載されている複合動詞をすべて調査した。選出した教科書は下記の通り(出版年の古い順)である。

- a 書名:『日本語中級J501—中級から上級へ—』(以下、J501)
出版社/出版年:スリーエーネットワーク, 2001年
- b 書名:『上級日本語教科書 文化へのまなざし』(以下、まなざし)
出版社/出版年:東京大学出版会, 2005年

- c 書名：『中級を学ぼう 日本語の文型と表現 56 中級前期』（以下、中56）
出版社／出版年：スリーエーネットワーク，2007年
- d 書名：『みんなの日本語 中級I』（以下、MI1）
出版社／出版年：スリーエーネットワーク，2009年
- e 書名：『上級へのとびら コンテンツとマルチメディアで学ぶ日本語』（以下、とびら）
出版社／出版年：くろしお出版，2009年
- f 書名：『ニュースの日本語 聴解50』（以下、ニュース）
出版社／出版年：スリーエーネットワーク，2010年

近年の教科書における複合動詞の扱い方を考察するため、初版が2000年以降のものを選出した。

5 調査結果

5.1 BCCWJ 2009 の調査結果

上記の4.1で示した方法で選出した120語の複合動詞（V1+V2）を、出現頻度の高い順に表1に示す。また、120語の中で、前項動詞（V1）、後項動詞（V2）別に見た出現頻度を、高い順にそれぞれ表2、表3に示す。検索した際、表記のゆれ、つまり、「申し上げる／申しあげる／もうし上げる／もうしあげる」や「ない形」、「ます形」、「命令形」、「推量形」などの文法項目による語尾変化などを全部カウントした。具体的な検索方法として、表記における各種の組み合わせ（「漢字+漢字」、「漢字+仮名」、「仮名+漢字」、「仮名+仮名」）を語幹まで入力し（「取り出す」の場合：「取り出」、「取りだ」、「とり出」、「とりだ」）、該当する複合動詞の出現数をカウントするという方法で結果を確認した。

表1 出現頻度290以上のV1+V2

順位	V1+V2	
1	申し上げる (7323) ※	31 話し掛ける (748)
2	思い出す (3635)	32 見成す (746)
3	繰り返す (3186)	33 取り扱う (737)
4	受け取る (2723)	34 取り巻く (732)
5	見付ける (2708)	35 見守る (731)
6	付き合う (2587)	36 入り込む (727)
7	見詰める (2447)	37 思い付く (720)
8	取り組む (2417)	38 思い切る (718)
9	出掛ける (2401)	39 思い込む (707)
10	取り上げる (2354)	40 付け加える (704)
11	受け入れる (2033)	41 作り上げる (689)
12	立ち上がる (1933)	42 呼び掛ける (678)
13	出会う (1661)	43 引き起こす (675)
14	振り返る (1659)	44 組み合う (656)
15	取り出す (1527)	45 追い掛ける (636)
16	受け止める (1165)	46 乗り出す (610)
17	見掛ける (1098)	47 見回す (595)
18	結び付く (1086)	48 振り向く (592)
19	飛び出す (1061)	49 引き出す (584)
20	成り立つ (987)	50 駆け付ける (578)
21	作り出す (964)	51 持ち込む (577)
22	見上げる (960)	52 結び付ける (565)
23	取り入れる (943)	53 打ち出す (552)
24	飛び込む (866)	54 組み合わせる (544)
25	取り入る (857)	55 似合う (540)
26	押し付ける (833)	55 見送る (540)
27	引き受ける (832)	57 乗り越える (534)
28	見直す (797)	58 見下ろす (513)
29	引き上げる (796)	59 立ち止まる (508)
30	取り戻す (791)	60 言い切る (501)
		61 知り合う (488)
		62 受け継ぐ (475)
		63 盛り上がる (453)
		64 追い付く (450)
		65 組み込む (449)
		66 取り込む (447)
		67 追い込む (446)
		68 抱き締める (445)
		69 持ち上げる (442)
		70 突き出す (430)
		71 浮かび上がる (428)
		72 踏み込む (428)
		73 取り付ける (423)
		74 向き合う (415)
		75 切り替える (413)
		76 落ち付く (408)
		76 問い合わせる (408)
		76 引き取る (408)
		79 見当たる (404)
		80 握り締める (403)
		81 打ち込む (393)
		82 見合う (391)
		83 追い詰める (386)
		84 見張る (381)
		85 取りまとめる (378)
		86 引き継ぐ (375)
		87 引き返す (374)
		88 し切る (373)
		89 飲み込む (372)
		90 取り掛かる (371)
		91 積み上げる (366)
		92 吐き出す (365)
		93 出向く (358)
		94 閉じ込める (353)
		95 見極める (352)
		96 見知る (346)
		97 申し出る (345)
		98 押し込む (344)
		98 切り出す (344)
		100 受け付ける (340)
		101 読み取る (339)
		102 見渡す (338)
		103 取り消す (337)
		104 引きずる (331)
		105 立ち寄る (330)
		105 問い掛ける (330)
		107 見抜く (329)
		108 見合わせる (328)
		109 突き付ける (325)
		110 取り合う (323)
		111 追い出す (322)
		112 立ち去る (317)
		113 睨み付ける (316)
		114 押し寄せる (309)
		114 踏み出す (309)
		116 働き掛ける (302)
		117 振り替える (301)
		118 送り込む (300)
		119 組み立てる (295)
		120 呼び出す (292)

※括弧の中の数字はBCCWJ 2009の調査において該当する複合動詞の出現頻度

表2 異なり語数3以上のV1

順位	V1～	複合動詞例
1	見～ (19) #	見合う、見上げる、見当たる、見合わせる、見送る、見下ろす、……
2	取り～ (14)	取り合う、取り上げる、取り扱う、取り入る、取り入れる、取り掛かる、……
3	引き～ (8)	引き上げる、引き受ける、引き起こす、引き返す、引きずる、引き出す、……
4	受け～ (5)	受け入れる、受け継ぐ、受け付ける、受け止める、受け取る
4	追い～ (5)	追い掛ける、追い込む、追い出す、追い付く、追い詰める
6	思い～ (4)	思い切る、思い込む、思い出す、思い付く
6	立ち～ (4)	立ち上がる、立ち去る、立ち止まる、立ち寄る
6	組み～ (4)	組み合う、組み合わせる、組み込む、組み立てる
9	押し～ (3)	押し込む、押し付ける、押し寄せる
合計	66	# 括弧の中の数字は該当する前項動詞V1の異なり語数

表3 異なり語数3以上のV2

順位	～V2	複合動詞例
1	～出す (13)◎	打ち出す、追い出す、思い出す、切り出す、突き出す、作り出す、飛び出す、……
2	～込む (12)	入り込む、打ち込む、追い込む、送り込む、押し込む、思い込む、組み込む、……
3	～付ける (8)	受け付ける、押し付ける、駆け付ける、突き付ける、取り付ける、睨み付ける、……
4	～合う (7)	組み合う、知り合う、付き合う、取り合う、似合う、見合う、向き合う
4	～上げる (7)	作り上げる、積み上げる、取り上げる、引き上げる、見上げる、持ち上げる、……
4	～掛ける (7)	追い掛ける、出掛ける、問い掛ける、働き掛ける、話し掛ける、見掛ける、呼び掛ける
7	～付く (4)	追い付く、落ち付く、思い付く、結び付く
8	～上がる (3)	浮かび上がる、立ち上がる、盛り上がる
8	～合わせる (3)	組み合わせる、問い合わせる、見合わせる
8	～切る (3)	言い切る、思い切る、し切る
8	～取る (3)	受け取る、引き取る、読み取る
合計	70	◎ 括弧の中の数字は該当する後項動詞V2の異なり語数

表1の複合動詞には、表2と表3で示した通りそれぞれ異なり語数を多く持っているV1 (V2) の組み合わせが見られる。これらの組み合わせはコーパスに頻繁に現れている複合動詞であり、つまり日本語母語話者がよく使っているということなので、優先的に学習者に教える必要がある。

5.2 中上級日本語教科書の調査

本研究で調査した日本語教科書6種類に掲載されている複合動詞の数（異なり語数）と出現頻度の高い順は下記の通りである。

書名	異なり語数
『J501』	113
『まなざし』	90
『中56』	24
『M11』	27
『とびら』	27
『ニュース』	24

教科書に採用されている複合動詞の内訳は以下のようにまとめられる（括弧の中の数字はBCCWJ 2009の調査において該当する複合動詞の出現頻度）。

出現回数	異なり語数	複合動詞例
5回	1	取り入れる
4回	1	落ち着く
3回	7	取り上げる、引き受ける、思い込む……
2回	32	取り組む、受け入れる、作り出す……
1回	211	思い出す、受け取る、見上げる……

【5種類の教科書に採用されている複合動詞】計1語：取り入れる (943)

【4種類の教科書に採用されている複合動詞】計1語：落ち着く (408)

【3種類の教科書に採用されている複合動詞】計7語：

取り上げる (2354)、引き受ける (832)、付け加える (704)、引き起こす (675)、
落ち込む (633)、打ち出す (552)、生まれ変わる (186)

【2種類の教科書に採用されている複合動詞】計32語：

繰り返す (3186)、付き合う (2587)、取り組む (2417)、受け入れる (2033)、
飛び出す (1061)、作り出す (964)、押し付ける (833)、思い込む (707)、
追いかける (636)、組み合わせる (544)、受け継ぐ (475)、追い込む (446)、
浮かび上がる (428)、思い浮かべる (428)、見極める (352)、押し込む (344)、
引越す (326)、泣き出す (304)、聞き取る (291)、決めつける (250)、
繰り広げる (249)、投げかける (246)、使い分ける (194)、聞き返す (193)、
盛り上げる (169)、思い浮かぶ (165)、切り捨てる (162)、割り切る (159)、
思い返す (143)、押しつぶす (85)、噛み付く (81)、並べ替える (37)

【1種類の教科書にしか採用されていない複合動詞】計211語：

思い出す (3635)、受け取る (2723)、見つける (2708)、見つめる (2447)、
引っ張る (1113)、見かける (1098)、結びつく (1086)、話し合う (1034)、
見上げる (960)、突っ込む (803)、見直す (797)、引き上げる (796)、取り
戻す (791)、話し掛ける (748)、取り扱う (737)、入り込む (728)、思い付
く (720)、たどり着く (696)、作り上げる (689)、呼び掛ける (678)、覗き
込む (649)、持ち出す (649)、でき上がる (618)、乗り出す (610)、逃げ出
す (592)、引き出す (584)、言い換える (578)、持ち込む (577)、取り除く
(567)、乗り越える (534)、知り合う (488)、追いつく (450)、組み込む (449)、
取り込む (447)、歩き出す (445)、抜け出す (431)、取り付ける (423)、
向き合う (415)、打ち明ける (413)、引き取る (408)、見合う (391)、差し
上げる (384)、取りまとめる (378)、引き継ぐ (375)、引き返す (374)、
持ち帰る (374)、飲み込む (372)、考え込む (362)、申し出る (345)、読み
取る (339)、取り消す (337)、見合わせる (328)、立ち去る (317)、送り込む
(300)、呼び出す (292)、当てはまる (290)、立ち直る (266)、突き止める (266)、
巻き込む (256)、あてはめる (250)、ひっかかる (241)、見込む (230)、
惹き付ける (228)、乗っ取る (225)、考え直す (219)、探し出す (219)、
忍び込む (213)、通りかかる (211)、見分ける (211)、書き上げる (209)、

笑い出す (208)、取り残す (207)、立ち向かう (206)、追いやる (205)、
寄り添う (204)、触れ合う (197)、ひっくり返す (190)、飛び上がる (184)、
切り開く (181)、振り回す (180)、掻き立てる (175)、はみ出す (175)、
読み上げる (175)、かけ離れる (173)、読み返す (168)、取り立てる (167)、
思い描く (166)、重なり合う (165)、持ち歩く (164)、推し進める (162)、
売り出す (146)、寄りかかる (146)、押し上げる (145)、思い詰める (145)、
引き締める (145)、飛び回る (144)、使いこなす (143)、迎え入れる (141)、
駆り立てる (137)、持ち上がる (137)、買い換える (133)、助け合う (132)、
突き進む (130)、押しのける (129)、見捨てる (128)、書き換える (125)、
のめり込む (123)、取り直す (120)、愛し合う (113)、仕上がる (112)、
住み着く (110)、打ち解ける (108)、分かち合う (107)、通り越す (106)、
抜き出す (106)、満ち溢れる (106)、追い返す (105)、話し出す (103)、
かけ抜ける (101)、駆け上がる (97)、信じ込む (97)、使い切る (96)、跳ね
上がる (96)、読み始める (95)、書き続ける (94)、降り出す (89)、掘り起
こす (89)、吸い取る (87)、乗り入れる (87)、編み出す (84)、押し進める (83)、
行き着く (83)、押し通す (82)、引き入れる (80)、置きかえる (79)、送り
返す (79)、巻き起こす (78)、引きこもる (76)、満ち足りる (72)、かけま
わる (68)、使い果たす (68)、咲き乱れる (66)、立ちふさがる (66)、待ち合
わせる (64)、誘い出す (63)、買い入れる (62)、押し返す (61)、切り詰める
(60)、つき合わせる (60)、躍り出る (59)、突っつく (59)、話し続ける (59)、
貸し出す (58)、通い始める (57)、指し向ける (57)、すり替える (56)、
積み重なる (56)、乗り遅れる (55)、のぼりつめる (54)、引き延ばす (54)、
溶け出す (49)、食い下がる (48)、つけ始める (46)、かけ直す (45)、追い続
ける (44)、し続ける (43)、読みふける (42)、呼び合う (37)、書き加える (36)、
渡り合う (35)、見くびる (34)、咲き誇る (33)、運び入れる (32)、見逃す (31)、
盛り返す (31)、埋め合わせる (30)、取り揃える (29)、押し止める (28)、
抱き続ける (26)、落ちこぼれる (26)、看取る (26)、引き分ける (24)、
引き合う (23)、担ぎ出す (22)、燃えたつ (22)、いきりたつ (21)、打ち下
ろす (21)、買いとる (20)、押しだす (19)、掘り当てる (19)、はい上がる (18)、
照り輝く (16)、読み切る (16)、成り代わる (15)、競り落とす (14)、溶け

合う (14)、使い捨てる (10)、述べ合う (10)、生き切る (8)、走り切る (7)、響き続ける (7)、綴じ込む (5)、入り組む (4)、太り始める (2)、編み直す (1)、請け負う (1)、避け合う (1)、綴じあわせる (1)、兼ね備わる (0)、刻み出す (0)、吹き変える (0)

6 調査結果の考察

6.1 BCCWJ 2009 の調査結果

「申し上げる」、「繰り返す」、「見付ける」、「出掛ける」のような、すでに一体化していると考えられる動詞を除いても、出現頻度の高い、つまりよく使用されている複合動詞が多数存在することが確認できる。そのうち、前項動詞で異なり語数が3以上の複合動詞は66語で、後項動詞で異なり語数が3以上の複合動詞は70語である。上記の4.1で示した方法で選出した使用頻度がもっとも高いトップ10%の120語のうち、出現頻度が1,000回を超えた語は19語 (15.83%) で、500回を超えた語は60語 (50%) である。本研究ではBCCWJ 2009のような大規模コーパスで現在よく使用されている複合動詞を特定し、これから日本語教育において優先的に導入したほうがよいと思われる複合動詞の選定基準を提案したい。

6.2 中上級日本語教科書の調査

調査対象とした6種類の教科書にある複合動詞の異なり語数と延べ語数はそれぞれ252語と309語である。252語の異なり語の複合動詞のうち、出現頻度が1,000回を超えた語は14語 (5.56%) で、500回を超えた語は47語 (18.65%) である。また、252語の異なり語のうち、石井 (2007) の「既成の複合動詞造語成分の接続表」にある4種類の辞書・資料 (GSIK) のすべてに入っている複合動詞は144語 (57.14%) しかない。教科書に採用されている複合動詞の中で出現頻度の高いもの (出現頻度300回以上) を表4に示す。

表4 中上級日本語教科書に採用されている複合動詞（出現頻度300回以上）

順位	V1 (読み)	V2 (読み)	V1 (書き)	V2 (書き)	書名	頻度※	教科書**
001	おもい	だす	思い	出す	とびら	3635	1
002	くり	かえす	繰り	返す	中56	3186	2
003	うけ	とる	受け	取る	中56	2723	1
004	み	つける	見	つける	とびら	2708	1
005	つき	あう	つき	合う	JS01	2587	2
006	み	つめる	見	つめる	とびら	2447	1
007	とり	くむ	取り	組む	中56	2417	2
008	とり	あげる	取り	上げる	JS01	2354	3
009	うけ	いれる	受け	入れる	JS01	2033	2
010	ひっ	ぼる	引っ	張る	まなざし	1113	1
011	み	かける	見	かける	MI1	1098	1
012	むすび	つく	結び	つく	とびら	1086	1
013	とび	だす	飛び	だす	中56	1061	2
014	はなし	あう	話し	合う	MI1	1034	1
015	つくり	だす	作り	出す	JS01	964	2
016	み	あげる	見	上げる	中56	960	1
017	とり	いれる	取り	入れる	MI1	943	5
018	おし	つける	押し	つける	JS01	833	2
019	ひき	うける	引き	受ける	MI1	832	3
020	つつ	こむ	突っ	込む	JS01	803	1
021	み	なおす	見	直す	JS01	797	1
022	ひき	あげる	引き	上げる	JS01	796	1
023	とり	もどす	取り	戻す	とびら	791	1
024	はなし	かける	話し	かける	MI1	748	1
025	とり	あつかう	取り	扱う	JS01	737	1
026	はいり	こむ	入り	込む	JS01	728	1
027	おもい	つく	思い	つく	まなざし	720	1
028	おもい	こむ	思い	込む	JS01	707	3
029	つけ	くわえる	付け	加える	MI1	704	3
030	たどり	つく	辿り	着く	まなざし	696	1
031	つくり	あげる	作り	上げる	JS01	689	1
032	よび	かける	呼び	掛ける	ニュース	678	1
033	ひき	おこす	引き	起こす	MI1	675	3
034	もち	だす	持ち	出す	JS01	649	3
035	のぞき	こむ	覗き	込む	まなざし	649	1
036	おい	かける	追い	かける	MI1	636	2
037	おち	こむ	落ち	込む	JS01	633	3
038	でき	あがる	でき	上がる	JS01	618	1
039	のり	だす	乗り	出す	ニュース	610	1
040	にげ	だす	逃げ	出す	JS01	592	1

041	ひき	だす	引き	出す	JS01	584	1
042	いい	かえる	言い	換える	JS01	578	1
043	もち	こむ	持ち	込む	中56	577	1
044	とり	のぞく	取り	除く	まなざし	567	1
045	うち	だす	打ち	出す	JS01	552	3
046	くみ	あわせる	組み	合わせる	MI1	544	2
047	のり	こえる	乗り	越える	JS01	534	1
048	しり	あう	知り	合う	JS01	488	1
049	うけ	つぐ	受け	継ぐ	まなざし	475	2
050	おい	つく	追い	つく	まなざし	450	1
051	くみ	こむ	組み	込む	まなざし	449	1
052	とり	こむ	取り	込む	まなざし	447	1
053	おい	こむ	追い	込む	まなざし	446	2
054	あるき	だす	歩き	出す	JS01	445	1
055	ぬけ	だす	抜け	出す	JS01	431	1
056	うかび	あがる	浮かび	上がる	JS01	428	2
057	おもい	うかべる	思い	浮かべる	まなざし	428	2
058	とり	つける	取り	付ける	MI1	423	1
059	むき	あう	向き	合う	MI1	415	1
060	うち	あける	打ち	明ける	中56	413	1
061	おち	つく	落ち	着く	MI1	408	4
062	ひき	とる	引き	取る	JS01	408	1
063	み	あう	見	合う	まなざし	391	1
064	さし	あげる	差し	上げる	MI1	384	1
065	とり	まとめる	取り	まとめる	ニュース	378	1
066	ひき	つぐ	引き	継ぐ	ニュース	375	1
067	ひき	かえす	引き	返す	JS01	374	1
068	もち	かえる	持ち	帰る	中56	374	1
069	のみ	こむ	飲み	込む	JS01	372	1
070	かんがえ	こむ	考え	込む	JS01	362	1
071	み	きわめる	見	極める	まなざし	352	2
072	もうし	でる	申し	出る	MI1	345	1
073	おし	こむ	押し	込む	JS01	344	2
074	よみ	とる	読み	取る	MI1	339	1
075	とり	けす	取り	消す	MI1	337	1
076	み	あわせる	見	合わせる	ニュース	328	1
077	ひっ	こす	引っ	越す	MI1	326	2
078	たち	さる	立ち	去る	JS01	317	1
079	なき	だす	泣き	出す	JS01	304	2
080	おくり	こむ	送り	込む	まなざし	300	1

※頻度：BCCWJ 2009の調査において該当する複合動詞の出現頻度
 ※※教科書：該当する複合動詞を採用している教科書の種類

これまで複合動詞の指導において、膨大な数の複合動詞の中から日常生活でよく使用されているものを選別して効率的に学習者に教えることは難しかったが、本研究の結果により、今後複合動詞を導入する際、日本語母語話者がよく使用する、すなわち学習者が知っておいたほうがよいものはどれかという観点から優先的に教えるべき複合動詞のリストを作成することが可能になった。森(2011:59)の指摘通り、使用頻度は、日本語母語話者がどれぐらい該当の項目を使っているかという実態を調べるために必要な参考情報であり、ただ単に勘で項目を選ぶことからの脱却の手がかりとなる。

7 日本語教育への活用

今後、本研究の成果を次のように日本語教育に活用することができると考えられる。

7.1 複合動詞指導のためのシラバス作り

複合動詞の指導のために、何よりもまず学習者のレベルに合わせて複合動詞指導のためのシラバスを作成しなければならない。有効な複合動詞の導入のため、導入する複合動詞を選ばなければならない。複合動詞は数が多いだけでなく、意味も使い方も習得が難しいものがあるので、習得が簡単なものから難しいものへと分類して整理する必要がある。そのために、本研究で明らかになった、コーパスに出現する複合動詞を網羅するデータが不可欠である。

7.2 辞書・教材の作成

学習者にしてみれば、大量の複合動詞の効率的な習得順序が示されないまま一気に消化しなければならず、複合動詞の学習意欲を促すための目的がうまく達成できるかどうかについては疑問が残る。この問題を解決するために、上記の調査結果をはじめ、コーパス資料と教科書に出ている出現頻度の高い複合動詞を整理し、学習者にとって分かりやすい複合動詞の辞書と教材を作成する必要がある。

日本語母語話者が実際使用している複合動詞のデータを使用頻度の観点でコーパスから検出することによって、よりの確に母語話者の複合動詞使用を反映した教材を作ることができると考えられる。さらに、学習者にとって単語そのものの使い方だけではなく、その単語と共起する語彙は知っておかなければならない重要な知識である^[注2]。コーパスは、コロケーションや類義語といった語法研究を大きく進展させる力強い武器である(砂川2010:106)。そのため、複合動詞そのものの使い方だけでなく、その関連語彙の知識も同時に学習者に紹介することが可能になる。例えば、「取り調べる」の場合、単純動詞(または単独動詞)の「調べる」と違って、一緒に共起できる目的語は「辞書」や「情報」のような「物」ではなく、「容疑者」や「犯人」のように「犯罪を犯した(または犯したと疑われる)人」でなければならない。将来複合動詞の辞書を作成する際、複合動詞の意味と使い方をはじめ、関連語彙と共起する助詞の使い方も学習者にとって重要な情報になる。

8 まとめ

本稿は、大規模な書き言葉コーパスを利用して、実際に使われている複合動詞の出現頻度について調査した。本稿の調査結果が、これからの複合動詞教材作成の一助になることを願っている。

〈香港中文大学〉

注

[注1] …… G:『学研国語大辞典(初版)』

S:『新明解国語辞典(第三版)』

I:『岩波国語辞典(第二版)』

K:『国立国語研究所資料集7 動詞・形容詞問題語用例集』

[注2] …… 砂川(2010:106)では下記のように指摘している。

語彙の習得は外国語学習にとって重要な課題であるが、いくら多くの単語を覚えたとしても、その使い方を知らなければ学習の意味はない。

「雨」という語は「止まる」ではなく「止む」と一緒に使われるということ、あるいは「止まる」と「止む」は使い方に違いがあるということは、学習

者が知っておかなければならない重要な知識である。

参考文献

- 石井正彦 (2007) 『現代日本語の複合語形成論』 ひつじ書房
- 何志明 (2009) 「香港の日本語学習者の複合動詞習得の現状」 『北研学刊』 通巻第5号, pp.105-115. 広島大学北京研究中心
- 何志明 (2010a) 「香港の上級日本語学習者による日本語複合動詞の習得に関する調査」 『東洋文化研究』 12, pp.491-510. 学習院大学東洋文化研究所
- 何志明 (2010b) 「習得しやすい日本語複合動詞とは何か?—香港人中上級日本語学習者の習得及び使用実態予備調査を通して」 『日本語/日本語教育研究』 1, pp.227-244. ココ出版
- 砂川有里子 (2010) 「コーパスを活用した日本語教育研究」 砂川有里子・加納千恵子・一二三朋子ほか (編著) 『日本語教育研究への招待』 pp.99-119. くろしお出版
- 田中衛子 (1996) 「複合動詞—日本語学習者の教育項目として」 『名古屋大学 日本語・日本文化論集』 4, pp.83-100. 名古屋大学留学生センター
- 田中衛子 (2004) 「類義複合動詞の用法—考—日本語教育の視点から」 『愛知大学語学教育研究室紀要 言語と文化』 10, pp.63-79. 愛知大学
- 松田文字 (2004) 『日本語複合動詞の習得研究—認知意味論による意味分析を通して』 ひつじ書房
- 森篤嗣 (2011) 「『現代日本語書き言葉均衡コーパス』 コアデータにおける初級文法項目の出現頻度」 森篤嗣・庵功雄 (編) 『日本語教育文法のための多様なアプローチ』 pp.57-78. ひつじ書房

執筆者一覧

- 張 麟声 (ちょう りんせい)
大阪府立大学人間社会学部教授
- 岩田一成 (いわた かずなり)
広島市立大学国際学部准教授
- 庵 功雄 (いおり いさお)
一橋大学国際教育センター准教授
- 中村紗弥子 (なかむら さやこ)
一橋大学大学院社会学研究科専任講師
- 清水まさ子 (しみず まさこ)
国際交流基金日本語国際センター講師
- 楊 秀娥 (よう しゅうが)
早稲田大学大学院日本語教育研究科博士後期課程
／華中科技大学 [中国]
- 許 挺傑 (きょ ていけつ)
筑波大学大学院人文社会科学研究科
文芸・言語専攻応用言語学領域博士課程
- 方 穎琳 (ほう えいりん)
お茶の水女子大学人間文化創成科学研究科
博士課程
- 李 宇霞 (り うか)
東京外国語大学大学院総合国際学研究科
博士後期課程／燕山大学 [中国]
- 烏日哲 (うりじゃ)
一橋大学大学院言語社会研究科博士研究員
- 大久保雅子 (おおくほ まさこ)
早稲田大学日本語教育研究センター
インストラクター
- 王 慧雋 (おう けいしゅん)
早稲田大学大学院日本語教育研究科博士後期課程
- 李 婷 (り てい)
早稲田大学大学院日本語教育研究科博士後期課程
- 田中 寛 (たなか ひろし)
大東文化大学外国語学部教授
- 簡 卉雯 (かん きぶん)
慈濟大学東方語文学科助教授 [台湾]
- 何 志明 (か しめい)
香港中文大学日本研究学科助教授 [中国]

コメント

張 麟声 「学習者独自の規則」とは何か ——その形成にかかわる認知的要因からの分類の一試案

日本の第二言語習得で「学習者独自の規則」ということが言われることがある。例えば、格助詞「に」と「で」の選択で言えば、「上、中、前」などのあとは「に」を使うという規則を作っているといったのがその例である。本研究では、こうした規則が形成される認知的プロセスについて論じている。まず、規則について学習者が自信を持っているかが問題となり、自信がない場合に、その規則が類推によるのか、帰納によるのか、誤解によるのかを区別される。第二言語習得研究の理論的枠組み作りに貢献する好論文。(I)

岩田一成 初級教材における使役の「偏り」と使用実態

初級教材（特に練習問題）を見ていると、共通するパターン（「偏り」）が見られることがある。本研究では使役を例にそうした「偏り」を検討している。その結果、教材の練習はほとんど、被使役者の格表示（「に」か「を」）に集中していることがわかった。一方、母語話者コーパスを分析すると、そもそも使役文自体の頻度が相当少なく、その中で被使役主が明示的に現れる場合はさらに少ないことがわかる。つまり、教材の扱いは言語使用の実態と合っていないのである。日本語教育文法の1つのあり方を示す論文。(I)

庵 功雄 文法シラバス改訂のための一試案 ——ボイスの場合

従来、初級でのみ導入される受身・使役について、会話コーパスの分析、および現行シラバスの問題点の指摘を通して、初級・中級・上級と各レベルで分散して導入すべきであるという新たな段階的文法シラバスを提案する。具体的にそれぞれのレベルにおいて、どのような受身・使役の表現を学習すべきかが提示されており、それは現在、中級・上級のレベルにある学習者に対しても行い得る、実効性を持つ提案でもあるだろう。(M)

中村紗弥子 終助詞的用法からみる「のだから」の意味 ——産出のための理解を目指して

学習者の誤用の中には聞き手に対して不快感を与えるものがある。「のだから」もその1つである。本研究は、終助詞的用法に対象を限定し、この形式が持つモーダルな意味を明らかにした。その意味とは、あることがらを必要だ／してもよいと思っている相手に対し、根拠を示しながら、それは必要ではない／してはいけないと指摘するということであり、「のだから」の部分が根拠になる。この根拠の部分は聞き手もわかっていることであるので、そこから聞き手に対する非難のニュアンスが生じやすいのである。(I)

清水まさ子 学術論文でノダ文はどのように用いられているのか

「のだ」に関しては膨大な数の研究があるが、その大部分は「のだ」の意味・機能を論じたもので、実際にどのような場合に「のだ」を用いればよいのかという産出面での疑問に答えるものはほとんどない。本研究は、人文科学系の学術論文の分析を通してこの問題に迫ったものである。分析の結果、「のだ」は段落末に用いられやすいこと、「のだ」の前後で主題は顕現し、かつ、異なることが多いこと、「のだ」は論証型の論文で多用される傾向があることなどがわかった。今後の論文指導の指針となり得る論文。 (I)

楊 秀娥 論文作成における「読む」活動の試み
——中国の日本語専攻における卒論指導実践の分析から

論文作成においては先行資料を読み込むことが必要になる。本研究では、卒業論文作成を最終目的とした形で、資料を「読む」活動を行った実践報告である。「論文スキーマを学ぶこと」「批判的な読みを学ぶこと」という2点を目標に、グループ活動を中心に授業が行われた。その結果、学習者は論文のスタイルを自覚的に発見し、学習者の中で論文を批判的に読む力が活性化された。アカデミック・リーディング、アカデミック・ライティング双方の研究に示唆を与える好論文。 (I)

許 挺傑 接触場面における日本語学習者の
共同解決型発話ストラテジー使用についての一考察
——ポライトネスとの関わりを中心に

コミュニケーション・ストラテジーの先行研究では、言語能力の差がその使用に対して大きな要因となると考えられてきたが、本研究では、共同解決型発話ストラテジーにおいては学習者のレベルを問わず同様の傾向が見られたことを指摘する。そしてそれが、共同解決型の接触場面においては、明瞭性・経済性の原則のほかに、話し手・聞き手双方がポライトネス維持の志向を持つ結果であると分析している。 (M)

方 穎琳 中国人日本語学習者による語彙的問題を修復するための
コミュニケーション方略

中国国内で日本語を学ぶ学習者と日本語母語話者との初対面会話において、学習者が語彙的問題を解決するために使用したコミュニケーション・ストラテジーを分析した。母語に切り替えたり漢字を使用したりする母語依存のストラテジーは習熟度にかかわらず見られ、学習者に対し、中国語の知識に基づくストラテジー使用がコミュニケーションを阻害する可能性があることを学習者に提示することが必要であると述べる。 (M)

李 宇霞 中国人日本語学習者同士の初対面会話における
話題展開パターン
——日本語と中国語の会話を通して

中国国内において日本語を学ぶ初対面の学習者同士が、日本語および中国語でどのような談話展開パターンを示すか、その異同を分析した。日本語での会話と中国語での会話には違いが見られ、日本語での会話では「質問-応答型」が、中国語会話では「相互話題導入型」が多く見られたことから、会話能力向上のためには、前者のパターンから後者のパターンへと指導していくことの必要性・重要性が述べられている。(M)

烏日哲 中国語を母語とする上級日本語学習者の語りにおける
名詞の使用について
——日本語母語話者と比較して

学習者の発話を聞いていると、文法的には間違っていないものの、母語話者の発話とは何となく違うという風を感じられることが多い。本研究は、学習者と母語話者に、絵本を見てその内容をその本を見ていない人に語るという課題を課した結果を、実質語(特に名詞)を中心に分析したものである。その結果、母語話者は出来事を外から客観的に捉えて表現する傾向にあるのに対し、学習者はストーリーを語る前に、それについての注釈をつける傾向があることがわかった。(I)

大久保雅子 台湾人日本語学習者における
ナ行音・ラ行音・ダ行音の聴取混同

台湾人日本語学習者がナ行音・ラ行音・ダ行音を混同しやすいという指摘はこれまでも見られたが、そうした混同が特に聴取面で、どのような環境において見られるのかについての研究は行われていなかった。本研究はこのテーマを扱ったもので、調査の結果、ナ行音とラ行音には誤聴は少なく、ダ行音の誤聴が圧倒的に多いこと、特に、エ音の前で誤聴が起りやすいことがわかった。つまり、「袖」を「それ」、「撫でる」を「慣れる」と聞き間違えるといったことが起りやすいのである。(I)

王 慧雋 使役の「文脈」
——《強制》の意味を表す使役を中心に

テレビドラマに出現した使役表現を分析し、「強制」の意味を表す使役がなぜ使用されたのかを考察した結果、使役は単に「強制」の意味を表すだけでなく、使役者の行為に対する不満・不適切さを表したり、使役者(自分)の行為の能動性を自慢したりする意図のもとで使用されていることを具体的に分析した。このような意図を場面・文脈という形で学習者に指摘した上で、使役表現を学ばせることの重要性が示されている。(M)

李 婷 メタ言語宣言表現の「文脈化」
——表現教育の視点から

「説明しておくね」「正直に言いますと」のように、これから行う言語行動を宣言するメタ言語宣言表現について、これらがどのような人間関係・文脈において、何のために使われるのかを、テレビドラマのシナリオを用いて分析した。メタ言語宣言表現は、常に相手との関係が大きく関わることを指摘し、学習者が必要な表現を的確に、また柔軟に使用できるように指導するための具体的な場面を豊富に抽出している。(M)

田中 寛 時の“特化”を表す名詞述語文
——〈～時だ〉、〈～昨今だ〉などを例に

「～時だ。」のような時間名詞を述語とする文が果たす意味や機能、文脈について、書き言葉における具体例に基づき、実証的に分析・考察した。取り上げられている時間名詞は非常に多岐に渡り、それぞれの時間名詞の持つ意味特性が、その意味機能と深く関わることを詳細に記述している。同時に、名詞述語文という文のタイプが、話し手の眼前事態に対する静態的な見方・発想を反映した表出機能を持つことも改めて指摘されている。(M)

簡 卉雯 動詞の意味特徴からみる
「ている」の「結果の状態」用法の習得
——縦断的事例研究

「ている」には「動作の進行中」を表す用法と「結果の状態」を表す用法があることが知られているが、学習者にとっては後者の用法の方が習得が難しいと言われている。本研究では、台湾で開発された縦断的中間言語コーパスを用いて、この問題が動詞の意味類型の観点から論じられている。すなわち、「ている」を「てくる」と混同する誤用は主に位置変化動詞に見られ、「ている」を「た」と混同する誤用は主に状態変化動詞に見られたのである。本研究は中間言語研究の新しいスタイルを示す好例と言える。(I)

何 志明 『現代日本語書き言葉均衡コーパス』及び
中上級日本語教科書における複合動詞の出現頻度

本研究では、複合動詞習得のためのシラバス、および教材・辞書作成の指針とするために、大規模な日本語書き言葉コーパスと日本語教科書を調査し、それぞれに出現する高頻度の複合動詞を特定した。その結果、膨大な数の複合動詞の中から、使用頻度が高い複合動詞、前項動詞、後項動詞が選別されている。複合動詞について客観的かつ効率的に指導するための貴重なデータが提示されている。(M)

査読者一覧

- 庵 功雄 (いおり いさお)
一橋大学国際教育センター准教授
- 石黒 圭 (いしぐろ けい)
一橋大学国際教育センター准教授
- 稲垣俊史 (いながき しゅんじ)
名古屋大学大学院国際言語文化研究科准教授
- 井上 優 (いのうえ まさる)
麗澤大学外国語学部教授
- 岩田一成 (いわた かずなり)
広島市立大学国際学部准教授
- 三枝令子 (さえぐさ れいこ)
一橋大学大学院法学研究科教授
- 佐藤琢三 (さとう たくぞう)
学習院女子大学国際文化交流学部教授
- 杉村 泰 (すぎむら やすし)
名古屋大学大学院国際言語文化研究科准教授
- 高橋美奈子 (たかはし みなこ)
四天王寺大学人文社会学部准教授
- 高梨信乃 (たかなし しの)
神戸大学留学生センター准教授
- 田中 寛 (たなか ひろし)
大東文化大学外国語学部教授
- 張 麟声 (ちょう りんせい)
大阪府立大学人間社会学部教授
- 林 良子 (はやし りょうこ)
神戸大学大学院国際文化学研究科准教授
- 星野 祐子 (ほしの ゆうこ)
十文字学園女子大学短期大学部講師
- 松田 真希子 (まつだ まきこ)
金沢大学国際機構准教授
- 前田直子 (まえだ なおこ)
学習院大学文学部教授
- 森 篤嗣 (もり あつし)
帝塚山大学現代生活学部准教授

編集後記

『日本語／日本語教育研究』第3号をお届けいたします。この第3号は、2011年9月に行われた第3回研究大会での発表論文を中心に構成されています。第3回研究大会では応募数11件のうち6件が採用され、当日は67名の方々がご参加くださいました。また、この第3号には、巻頭論文も含めて23本の論文が投稿され、16本が採用されました。多くの投稿をいただいたことに感謝するとともに、特に海外からの投稿が複数あったことを、関係者一同、嬉しく思っております。

本誌の査読は、日本語教育と日本語学の相互連携に強い関心と期待を持つ若手・中堅の研究者の方々のお力をお借りしています。査読においては、採否にかかわらず、その論文の良い点・直すべき点を指摘し、投稿者にとって有益なコメントを、とお願いしていますが、毎回、こちらの期待する以上の質と量の査読コメントを寄せていただいております。査読者の皆様の熱意とご尽力に対し、この場をお借りして改めて深くお礼申し上げます。

本研究会の会員数は現在約200名ですが、毎年、研究大会の発表申込み前、および論文投稿締め切りの前には、たくさんの方から入会申し込みがあります。引き続き積極的な研究発表への応募と論文投稿をお願いするとともに、発表後・投稿後も継続して本会を支えるメンバーとなっていただけることを、切に願っております。

2010年5月に刊行された本誌第1号は、当初の予定通り、1年半後の2011年11月からインターネット上で公開されています (<http://www.cocopb.com/NichiNichi/journal.html>)。本誌に掲載された論文が末長く、かつ世界の各地で引用されることを期待しています。

さて第4回目となる次回の研究大会は2012年9月30日(日)開催、発表応募の締め切りは7月5日(木)です。また今回の研究大会から新たに「ポスター発表」を受け付けることになりました。「ポスター発表」は、本研究会の趣旨に合う内容であれば応募者全員に発表をしていただく予定です。一人でも多くの方のご応募とご参加を心よりお待ちしております。(前田直子)

研究会役員

[代表] 前田直子
[大会委員長] 前田直子
[編集委員長] 庵 功雄
[会計監査] 金井勇人

日本語／日本語教育研究 [3] 2012

2012年5月20日 初版第1刷発行

[編者] 日本語／日本語教育研究会

[発行者] 吉峰晃一朗・田中哲哉

[発行所] 株式会社ココ出版

〒162-0828

東京都新宿区袋町25-30-107

電話 03-3269-5438

ファックス 03-3269-5438

[装丁・組版設計] 長田年伸

[印刷・製本] 株式会社シナノパブリッシングプレス

ISBN 978-4-904595-23-7

© ASSOCIATION OF JAPANESE LANGUAGE AND JAPANESE LANGUAGE TEACHING

PRINTED IN JAPAN